

笛吹市探訪

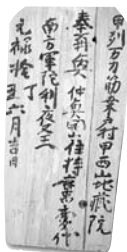
シリーズ 第14回

くわどごだいみょうおう 桑戸五大明王像

木造軍荼利明王立像の体内に納められていた修理銘板。元禄10(1697)年に木造軍荼利明王立像の修理した時に納入。



修復前の桑戸五大明王像(右より木造金剛夜叉明王立像・木造大威徳明王像・木造不動明王坐像・木造降三世明王立像・木造軍荼利明王立像)



今回の『笛吹市探訪』では春日居町桑戸区の所有する桑戸五大明王像について紹介します。

桑戸五大明王像は十世紀前半から十二世紀後半にヒノキ材を使い彫られました。主な部分是一本の木をくりぬいて彫られています。平安時代後期に彫られた五大明王像の残る例が少ないため平成9(1997)年に山梨県文化財に指定されました。

山梨県文化財に指定された時には桑戸五大明王像は手や足が折れ、持っていた武器等もなくなっていました。そのため桑戸区により修復事業が進められ、平成18(2006)年3月15日に『桑戸五大明王像修復事業完成披露式典』が桑戸不動堂で行われました。式典終了後の現在、桑戸五大明王像は春日居郷土館で公開しています。

桑戸五大明王像は桑戸不動堂にまつられていましたが、元は桑戸地区の茂林庵にまつられていました。茂林庵は寿永2(1182)年に造られたといわれています。天文19(1550)年、茂林庵と宝聚庵が合わさり、地蔵院が造られます。桑戸五大明王像は天正14(1741)年に地蔵院より旧桑戸村の表鬼門である現在地に移されました。五大明王は理想の実現をさまたげる

障害を取り除くために強い力をあたえられました。強い力で理想の実現をさまたげるワルモノを追いはらいます。ワルモノを恐れさせるために恐ろしい姿をして、手には武器を持っています。

五大明王の持つ強い力により桑戸村を災害より守ってほしいという願いがあつたのでしょう。

桑戸五大明王像の修理は元禄10(1697)年、元文6(1741)年、明治6(1873)年等に行われています。

桑戸五大明王像は五体あります。木造大威徳明王像の高さは82・0センチです。六つの顔、六本の手、六本の足があり、水牛にまたがっています。戦勝を願う明王として信仰されていました。

木造軍荼利明王立像の高さは141・7センチです。一つの顔に三つの目を見開き、八本の手があり、手や足には蛇が巻き付いています。仏の敵を取り除く明王です。

木造不動明王坐像像の高さは83・3センチです。通称『お不動様』と呼ばれ、五大明王の中心になる明王です。右手に持つ剣で私たちの心にある悪い心を退治します。

木造降三世明王立像の高さは143・5センチです。三つの顔にそれぞれ三つの目を見開き、手は八本あります。

右足で鳥摩妃を左足で大自在天を踏みつけています。欲・怒り・無智を無くす明王です。

木造金剛夜叉明王立像の高さは143・0センチです。三つの顔にそれぞれ五つの目を見開き、六本の手があります。悪い心を食い尽くす明王です。

桑戸五大明王像の公開に合わせて春日居郷土館では桑戸五大明王像関係資料も展示しています。それらは桑戸五大明王像修復作業中に体内より発見された江戸時代の修理銘板や五大明王の札を刷る時に使う版木等です。

修復事業が終わり、五年ぶりに勢ぞろいした桑戸五大明王像を見に来てください。



『桑戸五大明王像修復事業完成披露式典』風景(平成18年3月15日に桑戸不動堂で撮影)

右より木造金剛夜叉明王立像・木造降三世明王立像・木造不動明王坐像・木造軍荼利明王立像・木造大威徳明王像。

笛吹市教育委員会 社会教育課